

ながわ

那珂川町郷土史研究会

探訪 83

一の井堰より取水された水は、200m下流の橋までは、ほぼ直線距離を音もなく流れていきます。この区間は昭和48年の脊振ダム補償工事として「唐戸改修砂通しの新設、下流約200m両面擁壁改修護岸工事」が行われたと記録に残っています。この区間は右岸は石積みをもったコンクリート壁で

裂田溝10

裂田溝取水口(唐戸)より下流

高さは約4m、左岸は2mくらいの三面側溝です。

溝ぎりぎりまで、家が迫って建っています。

それぞれの家には裏庭から溝に降りる石段があり、その先には「汲ん場」と呼ばれる洗い場があります。溝の水は、農業用水だけでなく鍋や野菜などを洗ったり、生活用水としても利用されていました。

古老の話によると「裂田溝を流れる豊富な水のおかげで、山田には井戸を持つている家は何軒かしかなかった」ということです。

朝起きると、まず最初に飲み水を汲みあげるのが、女性の大事な仕事でした。雨が降りそうになると、どこか家庭も大がめを二つ位備えていたので、それにたつぷり水を汲みあげていました。水辺には屋敷神が祭られ、汚い物を流すと近所どおしで戒めあつて、水を汚さないように心がけていました。ある方は「山田は、七代善根を積まなければ嫁には行けない所と聞かさ



7. 汲ん場 - ニ



6. 汲ん場 - ハ



8. 汲ん場 - ホ



5. 汲ん場 - ロ

水藁の満々として
流れ行く
古人の築きし
裂田溝

節子

年に一度川掃除が行われています。

水路は堀を思わせる高さの壁に囲まれ四季おりおりの草花が両岸を彩ります。

- コースメモ
- 5. 汲ん場 - ロ
 - 6. 汲ん場 - ハ
 - 7. 汲ん場 - ニ
 - 8. 汲ん場 - ホ
 - 9. 橋 - 1
 - 10. 水口
 - 次号へ
 - 11. 汲ん場 - ヘ



9. 橋 - 1



10. 水口